

# 三水会会報

北里大学水産学部  
同窓会会報  
第54号

平成19年9月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学  
水産学部同窓会)

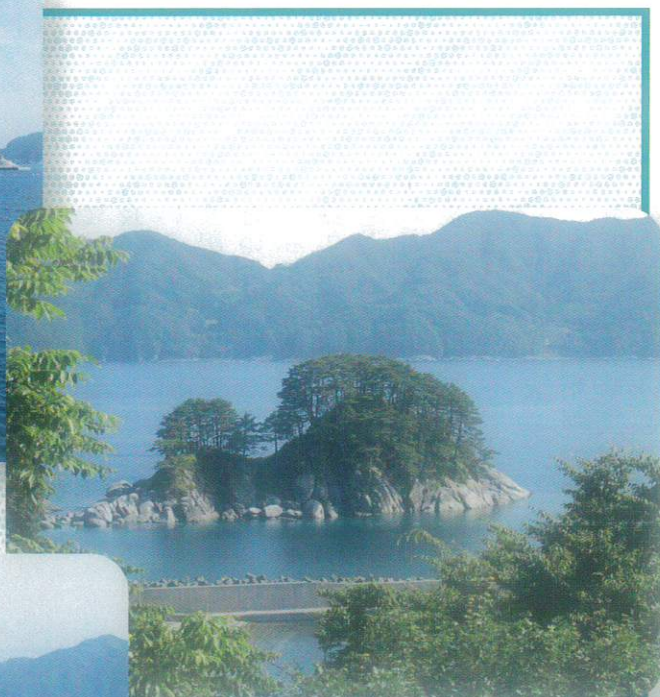
事務局 〒246-0031 神奈川県  
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル  
0120-873-135

|             |     |                 |     |
|-------------|-----|-----------------|-----|
| 目次          | P.1 | 教授就任挨拶酒井先生      | P.5 |
| 長久先生退職パーティー | P.2 | 平成19年度三水会定期総会報告 | P.6 |
| 関西地区親睦会     | P.3 | 関東地区親睦会報告・体育祭報告 | P.7 |
| 教授就任挨拶菅野先生  | P.4 | お知らせ            | P.8 |



「夏の越喜来湾」



「崎浜夏模様」



# 「長久英三教授退職記念パーティー」

H10年度卒業 赤羽 美奈子  
(24回生)



花束贈呈を受ける長久先生



佐藤美和先生



2007年3月31日(土)に東京全日空ホテル(現・ANAインターコンチ

ネンタルホテル東京)にて長久英三先生の退職記念パーティーが開催されました。開催が年度末にもかかわらず、水産食品化学研究室内の元教授である佐藤美和先生、東北大学に移られ現農学部教授である佐藤実先生、三水会の長谷川会長、食品化学研究室の卒業生など100名を超える方々にご出席いただきました。あまりの出席者の多さに驚いてしまいました。これも長久先生の人徳のなせる業だと感じております。

祝賀会のほうは開会の辞の後、菅野先生による長久英三教授の紹介、佐藤実先生による祝辞、長久先生からのごあいさつ、佐藤美和先生による祝杯へと続き、卒業生祝辞、花束贈呈、記念品贈呈へと進み、最後に参加者全員による写真撮影を行いました。

長久先生の在職中の卒業生は16

32回生まで313名とのことですが、この間の卒業生の出席者は92名にのぼったとのこと、先生の在籍中の実に約1/3の卒業生が出席したことになります。参加者のうちの1/3が女性ということもあり、にぎやかな祝賀会であったと思います。1回生から31回生まで幅広い年代の諸先輩・後輩の皆さんと世代を超えて三陸についての思い出話しを語ったり、久しぶりに会う同級生と近況について話しているうちに2時間という限られた時間はあっという間に過ぎていきました。私も長久先生に何とかあいさつをして、先生と記念撮影ができたといったところで

す。

長久先生がご退職を迎えることは大変残念ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻が頂きますようお願い申し上げます。ご健康に留意され、新たなコンサルタント業の成功を

遂げられますようお願い申し上げます。

祝賀会を開催するにあたり、ご尽力いただいた先生方、飯塚さんをはじめとする(株)アトラスの皆様、三水会より助成金をいただきましたことについて、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



三水会関西地区親睦会を開催して  
幹事 水島 正信  
(7期 生化研卒)

去る4月29日、緒方学部長夫妻、長久食品化学前教授に来阪していただき、関西地区の親睦会を開催しました。前回の親睦会の終わりに際して突然、幹事を指名されて早や3年がたっていました。昨年位から『もうボチボチ開催せなあかんなあ』という心のモヤモヤがありました。ほぼ全員が二次会まで参加していただき無事終了。今は心もスッキリ。肩の荷も下りました。

開催を終えて思うことは、色々な人に助けられてきたんだなあ。特に同期の二人。吉川君には、会計と参加募集の雑務、美野君には、メールや参加名簿管理等で大変協力してもらいました。振り返ってみれば私はワァーワァー騒いでい



学部の近況を語る緒方学部長

幹事の観点から思うに、先ず9期から17期卒の参加者が非常に少ない事。2点目として関西出身で地方に仕事で転勤されている人がいる反面、地方から関西に転勤されている人がいるのではないかと思います。この方々の情報を集め、いかに参加

ただけのように感じます。こんな私でも一番困ったのは参加人数。当初は三水会会報だけの募集だったのですが人数が募れず、前回の参加者に吉川君と電話攻撃。電話の私の声がいかがわしいのか、それとも大学名簿をもとによくかかってくる金融屋・先物取引業者に疑われているのか・・・思ったほど人数も集まらず、ここでも同期の生化学研の友、相模原在住の松本君が活躍。同期のメンバーの連絡役を快諾してもらい徐々に参加者が増え、参加人数の問題は解消していきましたが、開催当日まで人数の増減は続きました。また、企画内容で迷いが生じた際は、田代先輩が適切なアドバイスをして頂き、当日は写真係までしていただきました。次回幹事の件では、後輩13期の森さんの紹介で19期の森川さんに承諾してもらい、無事任務完了できました。

してもらおうかが課題ではないかと思えます。皆さんの仕事の都合上から開催日時の検討も大事ですが、ここには失礼な言い方ではありますが、客寄せパンダになつていただき、新規参加者と集えたらと思います。私たちの時代から見れば、先生方の陣容も過渡期を迎えているのではないかと思います。今のうちに対策がとれたらなあと思います。

話は変わりますが、皆さんもご存知の「一期一会」一生に一度まみえる。一生に一度しかあえないと思ひ真心を尽くしなさい。というような意味ですが、ある新聞の記事で、茶道では、その一瞬、時が違えば同じ人とお茶会をしても「一期一会」だそうです。まあ、我々は「お茶



ではなく、”お酒“の方ですが・・・次回の一期一会を楽しみにしています。森川幹事よろしく!! 先生方、三水会会長、先輩、後輩、参加者の皆さん。ありがとうございました。

## 水産学部教授就任挨拶

水産食品化学研究室

教授 菅野 信弘

平成19年4月に長久英三先生の後任として応用生物化学講座（水産食品化学研究室）の教授に就任いたしました。去る3月31日に東京で長久先生の退職記念パーティーを開催しましたが、その折には多数の卒業生および関係者にお集まりいただき盛会のうちに終えることが出来ました。退職記念パーティーについては本稿とは別に依頼があったと聞いておりますので詳しくはご紹介いたしません。が、ご参集いただいた方々には厚



く御礼申し上げます。研究室は現在、横山先生との二人体制ですが、来年度には新しい先生をお迎えできるものと思います。研究室の四年生を見ていますと、今年の就職状況は例年になく良好のようです。7月の時点で大半の学生が順調に進路・就職先を決定しています。これが日本経済の好転によるものなのか、いわゆる2007年問題に絡む一過性のものであるのかは定かではありませんが、いずれにせよ喜ばしいことです。世の例に漏れず、水産学部も2007年問題に直面していると言えそうです。一昨年には井田、川内の両先生が、昨年は神谷、長久の両先生が三陸

を後にされました。さらに今年度と来年度にも数名の先生方がご定年を迎えられ、水産学部は一気に世代交代ということになります。マニュアル化されていない学部運営のノウハウと責任を担っていただいていた先生方が次々に三陸を後にされてしまうことは非常に心細いかぎりです。残り2年間の間に出来得るかぎりそうしたノウハウを吸収することが後を継ぐ者の責務と考えています。



私の三陸での生活は昭和59年4月に助手として赴任して以来です。から、かれこれ20数年になります。現在の私があるのは、先々代の教授である佐藤美和先生、東北大にお移りになられた佐藤 実先生をはじめとした諸先生方のご指導ご鞭撻のたまものです。この場をお借りして深く御礼申し上げます。この間、三陸の風景の移ろいは非常にゆつたりとしたものでした。新三陸トンネルが開通し、現在は高田の一手手前まで三陸道が伸びています。水沢への道路も遅々とはありますが改良が続けられています。大船渡に幾つかのホームセンターが開店し、北インターにはマイヤが出店しました。私が三

陸に来た当時にはサンリアもまだ無かったはずですが。近場では、大平林道が舗装され、新しい学生アパートが次々に建ちました。とはいえ、崎浜の教員宿舎から見る越喜来湾の風景は20数年前とまったく変わっていません。車が無ければ不自由な生活を強いられる状況はなんら変わっていません。それに比べて水産学部とこれを取り巻く状況は激動しています。特に最近の10年間は、皆さんもご存知のように学部の移転問題がありましたし、大講座制への移行、研究主体で進めてきた学部教育のあり方を教育主体へとシフトする取り組み（FD、JABEE認定、学生による講義評価、教員評価の導入）を進めてきました。そして今まさにもうひとつの2007年問題である大学全入時代に直面しています。こうした状況の中で、平成20年度には、既に学部ホームページでもご紹介しているように、水産学部は海洋生命科学部へと名前を変えて新しい海に船出します。地方大学の例に漏れず本学部を取り巻く状況は決して安穏としたものではありません。微力ではありますが、緒方学部長を補佐し、「三陸丸」の実りある航海の一助たらんと努力していく所存でおります。

## 教授就任の御挨拶

水産資源化学研究室

教授 酒井 隆一

平成19年度4月付けで水産学部  
の助教から教授に任命されまし  
た。これまで、教育・研究とも  
に卓越した指導力で学部の発展に  
貢献された神谷久男名誉教授の掌  
の上で、研究・教育を中心とした  
教員生活を送っていましたが、  
教授に任命されたこれからは、研  
究・教育のみならず学部の運営に  
も尽力しなければならない立場と  
なりました。そのように思いなが  
ら、覚悟を決めていたつもりでは  
ありましたが、これまでに行つて  
いた授業に加えて受け持つことにな  
った複数の授業科目、学生実験、  
委員会活動、相模原での講義、等々  
めまぐるしい思いであつという間  
にこの4ヶ月間が過ぎてしまいま



した。その間、私の不在も多い中、  
研究室では大学院生を筆頭に4年  
生の皆さんたちは力を合わせ、少  
しでも実験を覚え研究を前に進め  
るべく力を合わせてくれました。  
こういうところに水産学部の学生  
たちの底力を垣間見ることができ  
ます。先日、水産資源化学研究室  
で、卒業研究の研究計画発表を行  
いました。私のグループに所属す  
る8人の4年生には、細かな指導  
ができず、発表についてもさぞ困  
っているだろう、と申し訳ない気  
持ちで聞いていると、いつもに増  
して活発な質疑応答があり、それ  
に答える発表者も一生懸命研究の  
背景を説明していました。研究を  
通じて個々の能力を引き出し、こ  
のように生き生きとした学生を育  
てることが、大学の教員の醍醐味  
でしょう。



話は変わって、今水産学部は過  
渡期にあります。これまでの教育  
体制は、この三陸の地において水  
産学の研究を通じて、そしてある  
意味学生にとっては厳しい環境で  
の生活を通じてお互いが助け合い  
つつ成長し社会に旅立つ、そうい  
うものだったように思います。来  
年から水産学部は海洋生命科学部  
と名称を変えて未来へと進んでゆ

きますが、水産学部の教育への基  
本的な考え方が変わることはない  
と思います。そして、三陸に來た  
学生の成長を支えるために、教員  
は丸となってこれまで以上に努  
力してゆくつもりです。そのため  
の重要な基盤となっているのが研  
究です。少なくとも研究に携わる  
教員や大学院生は大学の魅力の本  
質が研究の内容と成果に宿ること  
を知っています。三陸から世界へ  
と海洋生物の不思議を解き明かす  
研究成果を発信して、それを礎に  
成り立つてきたのが水産学部の教  
育であると思います。何もわから  
ずに研究室に配属されて、みんな  
と楽しく過ごしたいがために毎日  
研究室に通ううち研究の面白さに  
取り付かれてしまった卒業生の皆  
さんも少なくないと思います。卒  
業を目の前にして、もう少し研究  
したい、もっと奥深く学びたい、  
そんな思いを抱きながら社会に出  
て行った皆さんの研究結果が後輩  
に引き継がれ、そして大学院生の  
手によって実を結び、第一線の研  
究成果として本学部の真の広告塔  
となっているのです。社会で活躍  
する卒業生の皆さんと、皆さんが  
手にした研究成果。この二つが水  
産学部のプロダクツです。



水産学部が海洋生命科学部にな  
り、私たちのこの誇れる「2つの  
プロダクツ」をより広域的確にア  
ピールすることが要となります。  
そのために、そして今後この学部  
を発展させていくために、教員に  
は教員の、学生には学生の、とし  
て卒業生には卒業生の「やらなけ  
ればいけないこと」、「できるこ  
と」があると思います。それは、  
それぞれ教育・研究であり、勉学  
であり、そして社会で働き貢献す  
ることです。これらはみな当たり  
前のことですが、この、「当たり  
前のこと」を全力でやること、さ  
らにもう一歩前に進むために自ら  
の能力を磨くことが本学部の発展  
に資することを切に願います。ま  
たそうなると信じて研鑽したいと  
思う所存です。



## 『平成19年度 三水会定期総会報告』

平成19年度定期総会を5月19日（土）  
本学白金キャンパス薬学部1号館15  
07セミナー室にて開催いたしました。

理事・代議員計42名が出席（内、委  
任状提出者13名）、総会は成立いたし  
ました。議長に上田俊郎氏（5期増殖）、  
議事録署名人に稲沢昌茂氏（5期増殖）、  
安孫子信吾氏（28期食品）を選出後、  
議事として上程された平成18年度事業  
報告・同収支決算、平成19年度事業計  
画・同収支予算案、その他議案につい  
て、全て原案通り賛成多数にて可決、  
承認いたしました。

承認されました昨年度の事業報告・  
同収支決算、本年度の事業計画・同収  
支予算案は次の通りです。

全議事上程後、オブザーバーとして  
総会にご出席頂いた山森教授（魚類生  
理学研究室）より、水産学部の近況（水  
産学部創成期を支えた教授陣の定年退  
職、水産学部より海洋生命科学部への



山森教授を交えての懇親会

学部名称変更と三陸キャンパス存続決  
定による校舎建て替え予定、JABEE  
E取得と全国の高校での入試説明会開  
催など少子化時代の学生確保の取り組  
みについて、ご講話をいただきました。  
また、総会閉会後、大学本部食堂に

おいて懇親会を開催いたしました。懇  
親会においては、総会参加者の他、三  
水会会報における懇親会の告知を受け  
ご出席下さった三水会会員も加え、至  
る所で旧友との再会に花が咲いていま  
した。来年度の総会においても、総会

閉会後に懇親会を開催する予定です  
で、三水会会員におかれましては、ぜ  
ひご出席をご検討ください（来年度の  
総会、懇親会につきましては、平成20  
年3月発行予定の三水会会報にて、詳  
細をご連絡させていただきます）。

平成18年度収支決算書

| 支出の部            |           | 収入の部       |           |
|-----------------|-----------|------------|-----------|
| 科目              | 予算額       | 科目         | 決算額       |
| 1. 事業費          | 4,350,000 | 1. 部活動助成金  | 4,020,000 |
| (1) 会報発行費       | 1,800,000 | 2. 会報郵送料補助 | 522,500   |
| (2) 学部だより配布費    | 250,000   | 3. 講演会開催補助 | 1,300,000 |
| (3) 親睦会の開催      | 200,000   | 4. 前年度繰越金  | 1,089,155 |
| (4) 講演会開催費      | 1,300,000 | 5. 貯金利息    | 1,000     |
| (5) 同期会助成金      | 200,000   | 6. 雑収入     | 100,000   |
| (6) 大学・学生との懇談会  | 100,000   |            |           |
| (7) 課外活動助成金     | 200,000   |            |           |
| (8) 就職ガイダンス     | 250,000   |            |           |
| (9) 漁船海難遭児育英会寄付 | 50,000    |            |           |
| 2. 運営・管理費       | 2,370,000 |            |           |
| (1) 印刷・通信費      | 420,000   |            |           |
| (2) 会議費         | 700,000   |            |           |
| (3) 総会費         | 250,000   |            |           |
| (4) 事務局費        | 950,000   |            |           |
| (5) 慶弔費         | 50,000    |            |           |
| 3. 予備費          | 312,655   |            |           |
| 次年度繰越金          |           |            |           |
| 合計              | 7,032,655 | 合計         | 7,032,655 |

平成18年度事業報告

1. 会報の発行  
同窓生の動向、学部の状況、各種の情報などを内容とした会報を平成18年9月と平成19年3月の二回発行した。
2. 「水産学部だより」の配布  
本学水産学部の発行する「水産学部だより」32号を増刷し、全会員に配布した。
3. 会員の現状の把握  
全学同窓会と連携し、不明会員の調査など各層情報の正確性の向上に努めた。
4. 第33回全学同窓会講演会の開催  
各キャンパスを順次巡って開催している全学同窓会講演会を、全学同窓会と共催で開催した。
5. 同窓会等の助成  
同窓会、講座別OB会及び地方親睦会等卒業生の集いの費用の一部を助成した。
6. 懇談会の開催  
大学・水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換を行った。
7. 課外活動助成  
クラブの活動及び大学祭、体育祭費用の一部を助成した。
8. 就職ガイダンスの開催  
各分野の卒業生による就職ガイダンスを9月28日（木）に水産学部生を対象に三陸校舎にて行った。
9. 漁船海難遭児育英会寄付  
漁船海難等により親を亡くした子弟に、学費の援助を行っている漁船海難遭児育英会に対し寄付を行った。

平成19年度予算（案）

| 支出の部            |           | 収入の部       |           |
|-----------------|-----------|------------|-----------|
| 科目              | 予算額       | 科目         | 予算額       |
| 1. 事業費          | 3,900,000 | 1. 部会助成金   | 4,200,000 |
| (1) 会報発行費       | 1,850,000 | 2. 会報郵送料補助 | 542,000   |
| (2) 学部だより配布費    | 300,000   | 3. 前年度繰越金  | 1,717,067 |
| (3) 親睦会の開催      | 800,000   | 4. 貯金利息    | 1,000     |
| (4) 同期会助成金      | 200,000   | 5. 雑収入     | 100,000   |
| (5) 大学・学生との懇談会  | 100,000   |            |           |
| (6) 課外活動助成費     | 200,000   |            |           |
| (7) 就職ガイダンス     | 250,000   |            |           |
| (8) ホームページ開設費   | 150,000   |            |           |
| (9) 漁船海難遭児育英会寄付 | 50,000    |            |           |
| 2. 運営・管理費       | 2,370,000 |            |           |
| (1) 印刷・通信費      | 420,000   |            |           |
| (2) 会議費         | 700,000   |            |           |
| (3) 総会費         | 250,000   |            |           |
| (4) 事務局費        | 950,000   |            |           |
| (5) 慶弔費         | 50,000    |            |           |
| 3. 予備費          | 290,067   |            |           |
| 合計              | 6,560,067 | 合計         | 6,560,067 |

平成19年度事業計画（案）

1. 会報の発行  
同窓生の動向、学部の状況、各種の情報などを内容とした会報を平成19年9月と平成20年3月の二回発行する。
2. 「水産学部だより」の配布  
本学水産学部の発行する「水産学部だより」33号を増刷し、全会員に配布する。
3. 会員の現状の把握  
全学同窓会と連携し、不明会員の調査など各層情報の正確性の向上に努める。
4. 親睦会の開催  
① 平成19年4月29日（日）大阪市にて開催する。  
② 平成19年7月29日（日）千葉県水戸市、金田海岸において餅干作りと昼食会を開催する。
5. 同窓会等の助成  
同窓会、講座別OB会および地方親睦会等卒業生の集いの費用の一部を助成する。
6. 懇談会の開催  
大学・水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換会を行う。
7. 課外活動助成  
クラブの活動助成費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。
8. 就職ガイダンスの開催  
各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行う。
9. 三水会ホームページの開設  
19年4月よりリニューアルしたホームページで三水会の動向、学部の現状など各種情報をリアルタイムに発信する。
10. 漁船海難遭児育英会寄付  
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遭児育英会に対し寄付を行う。

関東地区親睦会に参加して

16 AF 磯山直彦

7月29日(日)に開催された、2007年度関東地区親睦会「潮干狩りと昼食会」についてご報告します。今年度の親睦会は、アクアラインの千葉側出口近くにある、南房総木更津温泉スパ三日月龍宮城および隣接する金田海岸の潮干狩り場にて開催されました。

当日は、朝早くからの集合にもかかわらず、25家族計74名と多くの方が参加されました。その中には、三水会創成期から理事を務められました、増殖学科2期生の横堀先輩がお孫さんと参加され、とても微笑ましい事でした。

雲の合間から日差しが見え隠れするなか、皆さんおもしろいおもしろい海岸へ移動し潮干狩りを行いました。熊手の貸し出しはありましたが、マイ熊手を持参し張り切っていました。



私たち子供もおり、この日を楽しみにしていた様子でした。途中から雨にみまわれまし



西村さん(4期)  
高木さん(3期)  
ご一家



たが、皆さん潮干狩りを存分に堪能したようです。なかには、アサリだけではなくハマグリも獲れた家族もあり、それぞれに笑みをこぼしながら海岸を後にしました。

温泉で汗と疲れをサッパリと落とした後、お待ちかねの昼食を兼ねた懇親会が、スパ三日月内の一室で行われました。皆さん、空腹を満たすかのように食事をとりながら、近況報告などで交流を深めていた様子でした。海岸が上げ潮で満たされ始めたころ、懇親会は終了を迎えましたが、その後、施設内のプール・休息施設などを利用し、ゆつくりとした時間を過ごす参加者も多数いました。

最後に、夏の思い出の1ページを綴ることが出来た本親睦会を企画・開催した、三水会執行部の皆様、そしてそのご家族の方々に感謝申し上げます。

『体育祭開催報告』

体育祭実行委員長 吉野 香菜

今年の体育祭は5月12・13日に開催され、競技は昨年同様に4種目を行いました。特にソフトボールは優勝チームが相模原キャンパスで行われる予定の全学部対抗試合への出場権もあるとのこと、で、始まる前からみんな気合が入っているように見えました。また、フットボール、baseは経験者が多く、全試合とも接戦し、白熱した試合展開でした。ドッジボールは参加チーム、人数ともに多く、大いに盛り上っていました。気がかりだった天気にも恵まれて、どの競技も終始笑顔の耐えない2日間となりました。



若手研究者「研究奨励賞」

応募者募集

第19回北里大学同窓会研究者研究奨励賞の募集についてお知らせします。

一 応募資格者

北里大学卒業後15年未満の研究者(個人)

二 奨励金額

30万円

三 応募締切日

平成19年12月末日

四 奨励賞授与日

平成20年5月の北里大学同窓会定期総会の席上で授与

五 応募方法

応募要項と応募用紙は同窓会事務局にありますのでご請求下さい

北里大学同窓会(田村・鈴木)

TEL

03・3446・7309

7383

## 見たい・知りたい・話したい

### ■会員名簿利用規約

三水会会員名簿の利用に関しては別途掲げる個人情報保護規約に則って運用されます。研究室のOB会や同期会などの開催告知への利用については以下の手続きに基づいてご利用いただくことになります。

当該会員数30名以下の場合

事務局指定の利用申請書にて申請。申請者の資格、申請内容に問題がなければ、事務局より承認の連絡と手続き、注意事項の説明をいたします。

当該会員数31名以上の場合

事務局指定の利用申請書にて申請。発起人3名以上による申請。三水会会報への告知。申請後の理事会の承認。

以上の手続きを経て、事務局より承認の連絡と手続き、注意事項の説明をいたします。

### ■野村節三先生古希のお祝いと水産微生物学研究室同窓会

野村節三先生古希の祝い兼水産微生物学研究室同窓会のご案内

この度、野村節三先生古希の祝いと水産微生物学研究室同窓会を開催する運びとなりました。詳細は三水会ホームページを参照下さい。

日時 平成19年10月20日(土)18:00～を予定

場所・会費はホームページを参照下さい。

## 北里大学同窓会北海道支部設立総会と二次会のお知らせ

3 F A 水鳥純雄

かねてより協議を進めてきました北海道支部の設立が決まり、9月22日18時から札幌市内のホテルにおいて設立総会を執り行うこととなりました。そこで、総会終了後、三水会会員でススキノに繰り出して二次会を行いたいと考えています。都合により総会にご出席出来ない方も、この機会に是非ご参加ください。会場等については、お申し込みのあった方に後日ご連絡差し上げます。

申し込みは 0120-873-135 (三水会事務局)

または、[information@kitasato-sansuikai.jp](mailto:information@kitasato-sansuikai.jp) までご連絡ください。

### ■水産増殖学講座卒業生の皆様へ

水産増殖学講座 岩田研究室卒業生の皆様、お元気でしょうか。この度、岩田宗彦先生は平成20年3月を持ちまして、定年退職されます。北里大学水産学部へ赴任され13年、大勢の卒業生が岩田先生のもとを巣立、各方面で活躍されていると思います。先生のこれからの新しい(楽しい)人生の門出の祝福と、皆様方の今後の交流を深める意味を含め「岩田先生の卒業を祝う会」を開催します。

平成20年6月初旬の週末、東京都内にて食事会を企画しております。

詳細は、平成20年3月10日発行の三水会報に掲載いたしますので、参加希望の方は、三水会HPにメールで申し込みください。

又、「岩田先生の卒業を祝う会」の企画を、手伝い頂ける有志の方を募集しております。週末、都内にて打ち合わせ会議(飲み会)に参加してみませんか「会議参加希望」と、ご連絡をお願いします。

連絡先 水産増殖学科 21期生 杉本 晶子(旧姓 嶋田) 〈岩田研究室一回生〉

E-mail [automigus@taupe.plala.or.jp](mailto:automigus@taupe.plala.or.jp)

## 編集後記

台風4号、中越沖地震と災害が続いておりますが、被災された会員やその知人、縁者の方々にはこの場を借りてお見舞い申し上げます。

平成20年度より水産学部も学部の名称を『海洋生命科学部』へと変更して、新しい時代を迎えようとしています。大学の組織や日本の社会がめまぐるしく変化をしていく中で、三陸の自然がこの35年間ろうじて守られていることはとても喜ばしいことです。今一度この貴重な三陸の地を振り返ってみてはいかがでしょうか。30年ぶりでも1年ぶりでも、きっとそこには懐かしさと、新しい発見があると思います。